

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題4）

-子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
2.(社福)恩賜財団 母子愛育会	1.2.3.4.5.	<p>1. 母子保健関係者に対する研修会・講習会の実施 目的・対象者及び参加人員 ① 保健師に対し、母子保健に関する最新知識と今日的課題への対応及び保健指導技術を修得させた。自治体の保健師 100名 ② 栄養士に対し、乳幼児期の食生活・栄養に関わる知識・情報を提供し、栄養相談を展開するための技術を学ばせた。自治体勤務の栄養士 30名 ③ 母子保健の課題と最新情報に関する講義、事例研究等により、専門指導員を育成した。自治体勤務の保健師・助産師・看護師等 30名 ④ 医師、助産師及び看護師に対し、新生児・未熟児の診断・治療・看護等に関する最新の理論と技術を提供した。医師・助産師・看護師 290名 ⑤ 臨床検査技師に対し、最新の技術と情報を提供し、技術者の資質を高めた。先天性代謝異常症等検査技術者 50名</p> <p>2. 子ども家庭福祉情報等の提供事業 目的～子ども家庭福祉に関する各種情報を幅広く関連機関職員や研究者等に提供した。 情報収集リスト～①国の施策、審議会、懇談会等②虐待問題、里親問題等③病気・医療 ④健やか親子21関連⑤子育て支援 ⑥児童福祉施設・養護施設 ⑦障害児に関すること等 Web版「愛育ネット」による情報提供～解説論文・行政情報及び統計情報 専門図書資料の収集及び閲覧～蔵書数 約5千冊、文献資料 約1,500件</p>	<p>平成15年度の取組実績に準じ、下記のとおり実施する計画である。</p> <p>1. 母子保健関係者に対する研修会・講習会の実施 実施内容及び対象範囲を再検討して実施する。</p> <p>2. 子ども家庭福祉情報等の提供事業 内容の充実を図り、実施する。</p> <p>3. 愛育班員等研修会 愛育班員の拡充と指導員の増員を図る。</p> <p>4. 子ども総研式・子育て支援質問紙の作成・頒布 設問内容を要望に添ったものに再検討し、作成する。</p> <p>5. 専門里親養成教育の開催 地方自治体からの要望に応じられるよう、関係方面と協議して実施する。</p>
2.(社福)恩賜財団 母子愛育会		<p>3. 愛育班員等研修会～市町村の愛育班員及び各保健所の保健師を対象に、中央及び地方における指導者・講師の派遣及び研修会等の開催 10回</p> <p>4. 子ども総研式・子育て支援質問紙の作成・頒布～育児不安の軽減を図るために、育児不安の関連要因を評定できるような質問紙を作成し、頒布した。</p> <p>5. 専門里親養成教育の開催～厚生労働省が平成14年度から導入した「専門里親」を養成するための理論と実践について教育した。 100名</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題4）
-子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
3. (財)家庭保健生活指導センター	49.育児について相談できる環境の整備	<p>49.育児について相談できる環境の整備 *母子保健相談を実施 目的：育児不安の軽減と解消 参加人数(対象者)：約20万人(妊産婦、子育て中の保護者) 開催数、方法等：250か所の母子保健相談室会場で毎週曜日を定めて開催 保健師等による対面相談方式 効果、その他：地域の連帯感が薄れ、身近に相談相手の少ない状況下において、当相談室の果たす役割は大きいものであると考える。</p>	<p>49.育児について相談できる環境の整備 *母子保健相談を実施 前年と同規模での開催を計画</p> <p>61.身体活動・運動の推進 *無償配布教材の作成、配布 目的：広く更年期女性を対象に更年期保健知識の普及・啓発を行う 内容：*更年期は、心とからだの転機*多くの女性が感じるいろいろな不定愁訴*更年期のヘルスケア(食事・休養・運動)*更年期が、健康寿命を支えていく 配布予定：保健所、保健センター、医療機関に無償配布 配布部数：100万部 効果、その他：少子高齢化時代の中、女性が更年期を健康に過ごすことは、女性の生涯にわたる健康づくりの施策の推進及び将来も活力ある社会の維持及び将来の老人医療費の抑制に効果的である。</p>
4. (社)国民健康保険中央会		<p>本会のテーマ「子供と高齢者が交流し、楽しく暮らせるまちづくり」市町村における子供と高齢者等との交流事業の状況調べ</p> <p>市町村において、子供のやすらかな発達につながり、かつ高齢者の生きがい対策につながると思われる世代間交流等事業事例を国保総合健康づくり推進事業報告及び全国保健センター連合会が調査したもの等から拾いだし検討した。</p> <p>その結果、市町村等においては、子供と高齢者の健康づくりについて総合化した事業、または住民の主体的活動を引き出すための支援事業を実施し成果を上げているところがあった。少子・高齢社会の対策を高齢者（または子供）へ集中せず高齢者と子供を含めた住民全体を対象とした総合的な健康づくり～ヘルスプロモーション運動の視点での展開である。高齢者と子供の触れ合う交流の場がまちのいたるところにある、車椅子と乳母車の外出に不自由しない環境づくりなどが安心して子育てができ、高齢者が暮らせる明るいまちづくりにつながると考えてのことだろう。</p>	<p>テーマ：子供と高齢者が交流し、楽しく暮らせるまちづくり</p> <p>平成15年度は、市町村における子供と高齢者等との交流事業の状況を画方面的活動実績から拾った。その結果、市町村においては、子供と高齢者の健康づくり事業の総合化推進を図って実施していることが分かった。本年度は、さらにこの市町村から数箇所を抽出し、継続性、発展性、効果などの状況を把握し、こうした事業推進が安心して子育てができ、高齢者が暮らせる明るいまちづくりにつながる、一方で医療や介護給付費の適正化への影響についても検討を加える。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題4）

-子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
5.子どもの心・体と環境を考える会	子どもの心と身体の健全な発達に関する学際的なエビデンスの集積	<p>○ 研究会誌「子どもの健康科学」第4巻1号発行 第4回学術大会の講演およびシンポジウム（「現代の子育てに対する地域支援の在り方」「わが国の将来を担う子どもの健全な育成のために」）について、演者が論文化した研究会誌200部を発行、配布した。</p> <p>○ 第5回学術大会開催 平成15年12月12日(金)13日(土)の両日、千葉大学けやき会館にて開催。参加人数約150名。「今考えよう！子ども達の環境と未来を」をメインテーマとし、2つのシンポジウム、2題の講演、3セッション11題の一般演題発表が行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウムⅠ：「飯倉教授追悼シンポジウム」 ・シンポジウムⅡ：「生き生きとした子どもを育む環境作り」 ・特別講演：「小児と環境ホルモン」 ・教育講演：「こどもの心身症」 ・その他一般演題では、「小学生の身体的健康・精神的健康と攻撃性との関係」「アトピー性皮膚炎患者に対するドルフィンキャンプ」「小児科疾患に対する行動療法的アプローチ-オペラント条件付けの査定と解除-」等、《課題4》に関連した研究報告がなされた。 <p>○ 第2回テーマ別研究会開催 平成16年3月13日(土)、東京医科歯科大学臨床第二講堂にて開催。参加人数50名。「第1部：研究方法立案ベシク-疫学を中心とする研究のデザインと倫理-（京科大学大学院医学研究科助教授：中山健夫先生）」「第2部：質的研究パート2-テキスト型データ解析の進め方：量的研究と質的研究のインターフェイス-（久留米大学大学院心理学研究科教授：津田 彰先生）」。</p> 	<p>○第6回学術大会開催 長嶋正實大会長（あいち小児保健医療総合センター：センター長）の下、平成16年12月4日(土)5日(日)に第6回学術大会を開催予定。場所はあいち小児保健医療総合センター大会議室、参加人数は200名程度を予定。メインテーマは「こどものこころ・体と環境をもつと健康に」とし、セミナー、教育講演、特別講演、2つのシンポジウム（「子どもの療養環境を考えよう」「軽度発達障害」）、一般演題発表、等のプログラムを現在準備中。</p> <p>○会員の質的向上を目指した研究会「テーマ別研究会」において、子どもに関する、研究や実践に役立つ課題を取り上げる。</p> <p>○研究会誌「子どもの健康科学」第4巻第2号、第5巻第1号を発行する。</p> <p>○会員相互の情報交換・意見交流を目的としたメーリングリストの活用。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題4）
 -子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
6. 児童虐待防止協会	45.虐待の発生予防、早期発見・対応、児の保護・支援の推進 47.子どもを虐待していると思う親への支援の強化 58.育児不安・虐待親のグループの活動への支援	45.虐待の発生予防、早期発見・対応、児の保護・支援の推進 ＊「Child Abuse研究会」の開催 目的：虐待に関わる専門職や学生を対象に、虐待への理解を深め支援のあり方をともに学ぶ場を提供する。 回数：年間4回開催 講演会3回、報告会1回 参加人数：59名～117名 効果：平成2年より通算122回に亘り虐待について、虐待についてさまざまな角度から取り上げてきている。平成15年度は、年間テーマを「子ども虐待における親と子のケア」と定め、フリージャーナリスト：椎名篤子氏、精神科医：滝川一廣氏、龍谷大学教授：金子竜太郎氏を講師にお招きし、虐待への理解を深めた結果、虐待予防の推進に貢献したと思われる。 ＊教職員対象「子ども虐待」研修会開催 目的：学校の教職員を対象に、夏季の長期休暇の間に、虐待についての理解を深め、早期発見・対応、支援のあり方を学び、日々の教育実践に役立つ研修を実施する。 対象：大阪府下の小・中・高等学校、養護学校の教職員（大阪府教育委員会が、平成15年度教職員自主研修支援「大学等オープン講座」適用による後援） 回数：年1回（2日間コース） 参加人数：88名 効果：虐待への気づき、関係機関との連携の強化、子どもと親への支援等について学び、日々の教育実践に役立った。	45.虐待の発生予防、早期発見・対応、児の保護、支援の推進 ＊「Child Abuse研究会」の開催（年間4回開催予定） ＊教職員対象研修会の開催 目的：学校の教職員を対象に、夏季の長期休暇の間に虐待について、虐待への理解を深め、早期発見・対応、支援のあり方を学び、日々の教育実践に役立つ研修を実施する。 対象：大阪府下の小・中・高等学校、養護学校の教職員 ・基礎編 100名 ・実践篇 70名（2グループ） （大阪府教育委員会が、平成16年度教職員自主研修支援「大学等オープン講座」適用による後援） ＊特別講演会の開催 目的：児童虐待について、外国の講師を招聘する等タイムリーなテーマで講演会を開催

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題4）
 -子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
6. 児童虐待防止協会		<p>* 「性的虐待」特別講演会開催 目的：我が国の虐待防止において、「性的虐待」に関しては特に理解と取り組みが遅れている領域である。J a s p c a n プレコングレスに招聘を受けて来日された小児科医キャロライン・レビット氏に、予定を一日早めていただき専門家向けの講演会を依頼。 対象：医師、保健師等の医療職や虐待に関わる専門職や学生 回数：年1回 参加人数：120名 効果：かなり専門的な内容であったが、先進的な取り組みをしているアメリカの実践に学ぶところは多かった。虐待を受けた子どもの面接の仕方等ビデオを使って具体的に学ぶことができたのも効果的であった。 * ポスター、リーフレットの作成、配布 目的：一般市民や地域ボランティア対象に児童虐待防止の啓発やホットラインのPRを目的に作成 配布対象者：一般市民、地域ボランティア（児童委員、子育てサポーター等） 配布部数：ポスター500部、リーフレット3000部</p>	<p>47.子どもを虐待していると思う親への支援の強化 * 子ども虐待に関する電話相談事業の継続実施 前年と異なる内容：精神科領域の医師との連携を更に強化し、ワークショップ等で相談員のスキルアップを目指す * 関係機関との連携の強化 前年度と異なる内容：他の虐待防止電話相談を実施している機関と共同で、「社会資源集」を発刊し、電話相談員が活用することで、より適切な対応できることを目指す。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題4）

-子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
6. 児童虐待防止協会		<p>47.子どもを虐待していると思う親への支援の強化 * 子ども虐待に関する電話相談事業 目的:「子どもの虐待ホットライン」は、孤立的な状況でストレスを抱えながら子育てをしている母親からのSOSに応じ、子育てへの支援を強化することを目的にしている。 相談件数:3094件(虐待に関する相談1339件、虐待予防相談1321件) 日数、方法等:月～金(PM11:00～AM5:00)電話3台で応じている 内容:虐待相談に関しては、虐待者、被虐待者、目撃者に分類され、虐待予防相談は、育児・しつけ、子どもの発達・行動、対人関係、精神保健に分類しているが、年々内容は複雑・多様化してきている。 効果:電話相談は、子ども虐待の防止や親への支援にとって重要な役割を果たしている。電話相談の一つ目の機能は、子育て中の親が、自分が虐待をしていることを、対面では言い出せない場合でも匿名で相談にのれること、また、感情が混乱し自分でコントロールできなくなった時に、身近な電話を通して即相談にのることができるといった匿名性と利便性にある。 又、電話相談は、虐待の発見・初期対応という重要な役割を担っている為、 機関連携との連携を深めることを目的に、毎年定例的に「関係機関懇話会」を開催しているが、今年は、2月に大10回目の懇話会を開催した。又、電話相談を実施している児童養護施設に呼びかけ、情報交換と電話相談のスキルアップを目的とした「第4回関西虐待防止電話相談連絡会」を開催した。</p>	<p>58.育児不安・虐待親のグループ活動への支援 * マザーグループへの支援 前年度と異なる内容:昨年度作成した「育児困難な母親たちへのグループケア」を活用し、保健所・保健センター等との地域機関との連携を更に強化すると共に大阪方式「マザーグループ」の普及に努める。 * 「ペアレンティングを支える会」の開催 前年後と異なる内容:より実践的な内容の検討会の開催(年間4回開催予定)</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題4）
 -子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減-

団体名	課題に対する団体としての15年度取り組み	15年度取り組み実績	16年度取り組み行動計画
6. 児童虐待防止協会		<p>58. 育児不安・虐待親のグループの活動への支援 * マザーグループへの支援 目的：子育て困難な母親を対象として、虐待への移行や虐待の進行を防止するために、グループワークの手法を用いて子育てを支援する。 グループの開催回数等：15年度は、10ヶ所の保健所・保健センターからの要請に応じてマザーグループに19人のスタッフを派遣した。グループの形態は、地域の状況により若干異なるが、一番多い形は、1回8～10セッション、1セッション1時間30分で母子分離の形態をとっている。母親へは、母親の安全感を護ることに最大限配慮しながら、自由なおしゃべりを中心としたグループワークを実施し、子どもへは、子どもの問題に応じた治療的な関わりを重視している。 効果、課題：グループの有効性については、“自分ひとりではないと感じた” “外に出るのがこわくなくなった” “子どもを叩くことが減った” 等母親自身がエンパワーされ、機関に上手にSOSが出せるようになることにある。しかし、グループの運営については、まだまだ試行錯誤の段階にある為、これまでの実践を調査分析し、冊子「育児困難な母親たちのグループケア」（福祉医療機構子育て基金助成事業）としてまとめ、発刊した。 10月に協会が主催がした「第3回母親のケアを考える会（マザーグループ交流会）」では、120名近い参加者があり、年々グループへの関心の高まりが感じられる。</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題4）
-子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
6. 児童虐待防止協会		<p>* 「ペアレンティングを支える会」の開催 目的：ペアレンティングは、アメリカやカナダにおいて虐待の予防や再発防止に関して、最も普及されている支援方法であると云われているが、日本においては、系統だった理論や支援方法がまだ確立されたものがない。3年計画でペアレンティングについての理解を深め、実践的に取り組みたいと考えているが、今年は2年目に入り、保健センター、子育て支援センター、家庭児童相談室を中心に実践交流をし、最近の子育ての現状と支援について理解を深めた。</p> <p>「勉強会」朝日新聞厚生文化事業団と共催で4回実施 固定メンバー20人（会場：朝日新聞本社地下会議室） 講演会「虐待の親への支援」の開催 参加人数200名（会場：大阪市立住まい情報センター）</p>	
9. 全国児童相談所心理判定員協議会		<ul style="list-style-type: none"> ・ 虐待相談の心理アセスメント検討 ・ 保護者の指導プログラム作成検討 ・ 児童養護施設ケアワーカーや心理職との連携 ・ 地域心理職との連携 <p>以上を会報（年四回発行）にて情報交換</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 虐待相談の心理アセスメント検討 ・ 保護者の指導プログラム作成検討 ・ 児童養護施設ケアワーカーや心理職との連携 ・ 地域心理職との連携 <p>以上を会報（年三回発行）にて情報交換</p>
10. 全国市町村保健活動協議会（NPO）	<p>44. 虐待による死亡の防止 45. 虐待の発生予防、早期発見・対応、児の保護・支援の推進 58. 育児不安・虐待親のグループの活動への支援</p>	<p>44. 虐待による死亡の防止 45. 虐待の発生予防、早期発見・対応、児の保護・支援の推進 58. 育児不安・虐待親のグループの活動への支援 上記3テーマに共通の取組実績として ※機関誌による情報提供等 年間通算6回発行（各15,000部）の機関誌「全保協ニュース」に、課題に関する情報提供及び地方日刊紙掲載の関連記事の紹介を行った。 ※調査研究事業による取り組み 「健康づくり事業活動モデル事例調査事業」をおこない、課題関連の活動に特色ある市町村を選定し、書面調査及び実地調査によって、その内容を把握し、報告書をまとめた。 ※研修会を実施 (1)平成16年2月、全国専門研修を実施し、保健活動に関する講演、シンポジウムのほか、グループ討議を行い、その中で「育児不安・虐待予防への取り組み」をとりあげ、事例発表、厚生労働省正田専門官の助言を得ながらのディスカッションを行った。（2日間延べ327名参加の研修会） (2)各協議会の自主研修に対し、助成を行った。（38県）</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題4）

-子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
11.全国社会福祉協議会	44.45.46.47.48.49.58.	<p>1.児童虐待防止事業の実施 (1)助成事業を継続実施 ①目的 市区町村社会福祉協議会において、児童虐待防止事業として民生委員児童委員協議会、児童福祉施設および関係機関・団体とともに子育て相談、子育て体験、子育てサロン等の実施促進をはかった。 ②助成社協数 20府県 30市区町社協 ③実施方法 地域における児童虐待問題に対応するために、市区町村社会福祉協議会に民生委員児童委員協議会、保育所などの児童福祉施設および市町村主管課、児童相談所、保健所・保健センター、学校、警察署、地域の各種団体(住民組織、ボランティア団体等)などから構成する「児童虐待防止連絡会」を設置し、児童関係機関・団体等との情報交換や協働活動の実施等日常的な連携を図った。</p> <p>さらに、上記の連絡会の開催に加えて、 ア. 児童委員・主任児童委員による子育て家庭への訪問活動 イ. 子育て家庭に身近な場での「子育て相談」や子どもからの相談の対応 ウ. 地域における「子育て体験」の実施 エ. 小地域における「子育てサロン」活動の実施 オ. 小地域における児童虐待予防・対応等の「研修会」の実施 カ.子どもと子育て家庭にやさしいまちづくり気運の醸成 キ.その他地域の特性を踏まえた子育て支援活動等の事業を選択して実施した。</p>	<p>1. 児童虐待防止事業の実施 (1)助成事業を継続実施 ①目的 都道府県・指定都市社会福祉協議会及び市区町村社会福祉協議会児童虐待防止事業として民生委員児童委員協議会、児童福祉施設および関係機関・団体とともに子育て相談、子育て体験、子育てサロン等の実施促進をはかる。 ②助成社協数 a.研修会、セミナー等開催 20県・市社協 b.連絡会、子育てサロン活動等 30市区町村社協 ③実施方法 a. 都道府県・指定都市社協による市区町村社協における虐待防止への取り組みの推進を目的とした連絡会議、研修会、セミナー等の開催。 b. 地域における児童虐待問題に対応するために、市区町村社会福祉協議会に「児童虐待防止連絡会」を設置し、児童関係機関・団体等との情報交換や協働活動の実施等日常的な連携を図る。この連絡会の構成は、民生委員児童委員協議会、保育所などの児童福祉施設および市町村主管課、児童相談所、保健所・保健センター、学校、警察署、地域の各種団体(住民組織、ボランティア団体等)などから構成とする。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題4）
 -子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減-

団 体 名	課題に対する団体としての 15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
11. 全国社会福祉協議会		<p>2. 地域における子育て支援の推進 (1)「子育て家庭支援のための『ふれあい・子育てサロン』活動の開発のための調査研究事業」(第3年次)の実施 ①全国実態調査の実施 子育てサロンの実施などについて、3か年間の調査研究事業の効果分析等を行うため、全国の市区町村社協に実態調査を実施した。 ②活動推進都道府県・指定都市社協事業の実施 子育てサロンの立ち上げおよび調査研究の実施のため、応募のあった15府県・指定都市社協を活動推進社協として指定し、業務を委託した。 なお、活動推進社協は市区町村社協と協働して以下のいずれかの事業に取り組んだ。ア. 新規子育てサロン立ち上げ事業、イ. フォローアップ事業(13・14年度受託サロンの追跡調査)、ウ. 多様なニーズに対応した子育てサロン調査事業、エ. 子育てサロン担い手養成研修事業 ③子育てサロン推進全国フォーラムの開催 調査研究の成果をふまえ、一層の子育てサロンの普及推進のために、平成16年1月26～27日に子育てサロン推進全国フォーラムを開催した(会場:東京国際フォーラム、参加者:530名)。 ③企画委員会の開催 上記調査・フォーラムの実施ならびに報告書の取りまとめのため、6回の企画委員会を開催した。</p>	<p>さらに、上記の連絡会の開催に加えて、 ア. 児童委員・主任児童委員による子育て家庭への訪問活動 イ. 子育て家庭に身近な場での「子育て相談」や子どもからの相談の対応 ウ. 地域における「子育て体験」の実施 エ. 小地域における「子育てサロン」活動の実施 オ. 小地域における児童虐待予防・対応等の「研修会」の実施 カ. 子どもと子育て家庭にやさしいまちづくり気運の醸成 キ. その他地域の特性を踏まえた子育て支援活動等の事業を選択して実施する。 2. 地域における子育て支援の推進 (1)「社会全体でこれからの子育てを支えていこう」キャンペーン(仮称)の実施子育てを楽しめる社会づくりのために、社会全体で子育てを支えていくことの重要性(次世代育成支援の理念)について、広く社会の理解を求めていくための取組みの実施。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題4）

-子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
11. 全国社会福祉協議会		<p>(2) 保育所の子育て支援に関する取り組み事業 11月29日の保育士の国家資格化を機に、保育士の専門性を発揮するとともに、地域における子育て支援システムの構築等を目指し、①保育士の専門性の発揮とPR、②諸機関と協働した子育て支援活動等の展開、③地域における子育て支援システムの構築などを目的に、全国保育協議会、都道府県（市区町村）社協等とともに、中央レベル及び都道府県・指定都市・支部レベル等において各種事業を実施した。</p>	<p>(2) 児童委員活動強化推進方策第2次アクションプランの実施 ①目的 a. 第1次アクションプランにおいて分析した地域の課題に対する取り組みを発展させ、市区町村児協レベルにおいて「わがまち」ならではの「子どもと子育て家庭の立場に立った」具体的な活動を展開する。 b. 活動の展開にあたっては、民児協として組織的・計画的に実施する。また、同じ地域に住む身近な支援者の立場から、地域の多様な機関・団体と協働し、親子が利用しやすい、住民とともに歩む、住民にわかりやすい活動として展開する。 ②期間 平成16年4月～平成19年11月 ③活動メニュー a. 子育てサロン（子育てひろば、つどいの広場）乳幼児とその親が集い、親同士、子ども同士が交流できる「つどいの場」をつくる活動 b. 子育てマップや子育て啓発パンフレットづくり遊び場、医療機関、子連れで入りやすいお店、子育てにかかわる施設等、子育てに役立つ場所や情報を、地図(マップ)やパンフレットなどにまとめ配布する活動 c. 「赤ちゃんおめでとう」訪問活動 子どもが誕生した家庭を児童委員が（お祝いの品を持って）訪問し、その後も交流し必要に応じて親子の相談にのる活動</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題4）
 -子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
11. 全国社会福祉協議会			d. 土日、放課後の子どもたちの居場所・つどいの場づくり 土日や放課後に、子どもたちが、運動やゲーム、学習などができるような居場所・つどいの場をつくる活動 e. 福祉教育・体験活動の取り組み 子どもたちを対象に、福祉教育・ボランティア体験や職業体験のプログラムを実施する活動 f. 世代間交流 「昔の遊びを知る」「農業を体験する」など、子どもたちと高齢者が交流できるプログラムを実施する活動 g. 地域住民向けの啓発活動 地域住民を対象に「児童虐待」や「子育てをめぐる課題」などをテーマに講座や研修会などを実施し、啓発を行う活動 h. 相談活動 保健所・保健センターや地域子育て支援センター等において、子育て中の親子の相談にのる活動 i. 地域でのパトロール活動 夜間や、学校の夏期冬期休み期間中などに地域をパトロールして子どもたちに声をかけ、非行や犯罪に巻き込まれることを防止する活動 j. 他機関・団体との子育てや虐待にかかわるネットワークづくり 地域子育て支援センターや児童相談所等関係機関・団体とネットワークをつくり、地域の子育てをめぐる課題を協議する、親子への見守り活動などを行う
11. 全国社会福祉協議会			k. 不登校児童、引きこもりの子どものための居場所づくり 不登校児童や引きこもりの子どもが、日常的に通い、勉強や運動などを行うことができる居場所を運営する活動